



研究室紹介

文学部 国文学科

ANAI Jun

穴井 潤 講師

佐賀県生まれ。國學院大學文学部日本文学科卒業、早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻日本語日文学コース博士後期課程修了博士号取得。日本学術振興会特別研究員(DC2)、埼玉学園大学人間学部 特任講師などを経て、2024 年本学着任。論文に「御子左家私家集の系譜」(『日本文学研究ジャーナル』16号、2020年12月)ほかがある。

日本文化の源泉

私の専門は和歌文学です。昔の人は、春になれば桜を、秋になれば月を眺めたり、片思いや破局をして苦しんだり、人生で起きるさまざまなイベントに寄せて歌を詠んできました。そして、詠まれた歌は「型」となり、その型に沿ってまた歌が詠まれる……そうした営みを千年以上続け、美意識や価値観を継承してきたのです。和歌は、私たちが当たり前と思っている感覚の源泉といっても過言ではありません。千年前の歌の中にも、現代の私たちが共感できるものが数多く残っており、それを発見することは何物にも代えがたい喜びなのです。

古典を研究することになるとは…

古典文学研究者だからか、「昔から古典が大好きだったのだろう」と思われるのですが、大学入学時にはそのような未来は思い描いていませんでした。むしろ高校生までは古典が苦手で、小説を読みながら過ごせたらいい、という程度の動機で大学・学部を選びました。ところが、人生の分岐点はどこにあるか分からないもので、「せっかくだから古典を学んでみてはどうか」という教員の一言によってなんとなく授業を受け、その面白さにのめり込み、あれよあれよという間に大学院進学を決め、今に至っています。

「奈良」にある国文学科の強み

私の人生が思いも寄らない方向に進むことになったのは、大学での授業がきっかけです。だから、進学を考えている人には色々な授業を受けてほしいと思います。国文学科には上代から現代までの文学、さらに国語学の教員が在籍しており、複数のゼミで学ぶことができます。皆さんの中には、私のように「小説が好きだから文学部が気になっている」という人がいるかもしれません。その場合、近現代文学を学びつつ、他の時代の文学を学ぶことが可能なのです。しかも、奈良といえば日本文化発祥の地。そこで古典を学ぶことは、他ではできない体験です。ぜひ、古都の風情を味わいながら、一緒に文学を楽しみましょう。

ゼミ生からのメッセージ

2年生 山本 芽明里 さん

私たちのゼミでは、平安時代の院政期から鎌倉・室町時代の作品のうち1つを読みといていく、ということをしています。古典作品は好きだが、文法等が苦手だ、という中高生の方は多いのではないのでしょうか。私もその1人でした。ですが、文法に関するものが出てきた際、ここが分からないです、と聞けば教えてくださるため、文法から来る古典の苦手意識は自然となくなっていきました。純粋に内容を楽しめるようになりました。また、解釈について質問した際の先生の様子がとても生き生きとしているので、本当に好きなんだと思える点も楽しいところです。

ならぶ

Na Love

Nara
University
Bulletin

Vol. 196

つなごう、未来へ
th
学校法人奈良大学



奈良大学
NARA UNIVERSITY

祝 学校法人奈良大学創立100周年

1. はじめに

奈良大学は昭和44年(1969年)に開設し今年57年目になりますが、奈良大学の基礎となる南都正強中学が大正14年(1925年)に創設されてから、令和7年(2025年)に100周年を迎えます。本学園の一員として、学校法人奈良大学創立100周年をお祝い申し上げます。

本学の歴史は創設者藪内敬治郎先生が「向学心に燃えながらも進学できない青年たちに学びの場を提供したい」という熱い思いのもと、夜間の南都正強中学を創設されたことに始まります。その後、昭和23年(1948年)の学制改革を経て新制正強高等学校が誕生し、昭和44年(1969年)には奈良大学が開設されました。さらに平成5年(1993年)に大学院、平成17年(2005年)には通信教育部を設立しながら発展を遂げています。私たちは「努力すること」「正しきに強き人の育成」を理念として掲げ、時代の変化に応じた教育の場を提供してまいりました。

2. 本物に触れる学び

奈良は、日本国の発祥の地であり、日本の歴史・文化・政治・経済の骨格を築いた特別な土地柄です。この地は日本の「青春時代」とも言うべき若くて生気にあふれた歴史の舞台であり、古代日本の人々が試行錯誤を重ねながら発展を遂げた証が数多く残されています。また、現在の奈良は、こうした歴史と文化を活用した観光都市として、国内外から多くの人々が訪れる都市でもあります。奈良大学は、この特別な土地柄に根差し、創立以来「本物に触れる学び」を実践してきました。本学では、学生が奈良の豊かな歴史と文化に触れることを通じて、「地域を元気にする」力を身につけられる教育を提供しています。教室での学びにとどまらず、実際の調査や保存活動、地域社会との関わりを通じた実践型学習を重視しています。これにより、学生たちは「生きた学問」を体感し、社会で活躍できる実力を培います。

3. 「地域を元気にする」人材の育成

奈良大学には、国文学科・史学科・地理学科・文化財学科の文学部4学科と心理学科・総合社会学科の社会学部2学科があります。この多様な学問分野を「クロスオーバー」というコンセプトでつなぎ合わせることで、学生自身が学科の枠を超えた視点を持ち、社会人としての実践力を身につけられる環境を整えています。さらに、奈良大学は、地元の奈良・大阪・京都だけでなく、全国から学生が集まる大学です。そこで、奈良の地元行政や研究機関・企業などと連携し、学生が現場で学ぶ機会を積極的に提供しています。この取り組みを通じて、学生たちは「本物」に触れながら、自らの成長を実感するとともに、地域社会に貢献する力を育んでいます。

4. 研究を支える「知の拠点」

大学は「知の拠点」としての役割も担っています。本学では、教育の基盤として研究活動を重視し、競争的研究費の獲得や外部との共同研究を積極的に推進しています。教員の研究活動を支援するための「ステップアップ研究費」制度も導入しました。また、共同研究員室の整備を行い、長期的な研究環境の充実にも努めています。こうした研究活動は、教育内容の質を向上させるとともに、地域社会や国際社会への貢献にもつながっています。

附属図書館の充実も奈良大学の大きな強みです。約59万冊の蔵書を誇り、学生1人当たりの蔵書数など総合評価で全国1位(2019年度『大学ランキング』)になったこともあります。日本考古学協会から寄贈された6万冊以上の文化財研究書や全国の発掘調査報告書は、研究者のみならず、学生にも広く利用され、質の高い学びを支える基盤となっています。

5. 100周年を越えて未来へ

学校法人創立100周年を迎えるにあたり、学園の一員である私達も新たなスタート地点に立っています。本法人のキャッチフレーズである「つなごう、未来へ」は、これまでの100年の歴史を未来へと引き継ぎ、新たな挑戦を続ける決意を示しています。本学は、地域社会との連携を一層深めながら、教育・研究・社会貢献を通じて未来を切り開く力を育成する大学であり続けます。

この100年を支えてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。これからの奈良大学も、学生一人ひとりの成長を支え、社会に新たな価値を創造し続ける大学であることをお約束します。どうぞ今後とも奈良大学をよろしくお願い申し上げます。



奈良大学
学長 今津節生



体験型講義 「浮世絵を摺る—江戸の出版文化の魅力—」を開催!



国文学科では毎年、さまざまな文化に触れる講義を企画しています。今年度は、10月15日に「浮世絵を摺る—江戸の出版文化の魅力—」と題した体験型講義を開催しました。

京都で長らく木版画印刷を手掛けている美術出版社・芸艸堂の早光照子氏、佐藤木版画工房の摺師・中山誠人氏をお招きし、浮世絵の製作工程を実演していただきました。今回は、葛飾北斎の浮世絵画集「富嶽三十六景」の一図「神奈川冲浪裏」を、数枚の版木を用いて摺り、色鮮やかな浮世絵にいただきました。当日は70名を超える学生が参加し、会場は熱気に包まれていました。摺り重ねられていくたびに、歓声と拍手が起こっていたのが印象的でした。今回の体験を通して、学生たちには、一つひとつの作品がどのような過程を経て作られていくのかを感じ取ってもらえたと思います。

実演のほかにも、学生自身による摺り体験もおこなわれました。北斎の画集『北斎漫画』に描かれる相撲取りと大道芸の絵を題材に、三枚の版木を用いてポストカードに摺るというもので、慣れないながらも楽しく取り組んでくれたのではないのでしょうか。また、奈良大学図書館所蔵の浮世絵の版木も展示され、江戸時代から続く彫刻・印刷の技術の高さに、ただただ驚くばかりでした。

国文学科では、「体験」を重視した学びをモットーにしています。今後も「本物」に触れる機会を数多く作っていきたいと思います。

文学部国文学科
3年生

井西 彩心 さん
(大阪商業大学高等学校出身)



摺師の方の作業では、道具の位置や座り方にも拘りが見られました。何百枚と摺る必要がある作業に向けた環境作りが、浮世絵制作の作業量の多さを物語っていて興味深かったです。また、実際に摺る体験では、絵の具を載せる前に専用の糊を塗り、紙への定着を高める作業が、水彩画や油彩画にはない独自性があり面白かったです。浮世絵1枚にかかる時間は2分程度で、誰にでも簡単に作れるという生産性の高さが、江戸時代の浮世絵や文学の流行に繋がったのだと実感できる体験でした。



文学部
史学科

今年も山添村での古文書調査を実施しました!



2024年9月10日(火)～11日(水)の2日間にわたって、山添村教育委員会のご協力により、今回で19回目となる古文書調査を実施しました。調査には史学科教員と本学学生有志延べ42名が参加しました。なお、本調査は奈良大学総合研究所の特別研究事業です。

整理したのは、勝原区有文書と葛尾観音寺文書です。勝原区有文書は、近代の公的な文書が中心で農業関係などの簿冊が多数ありました。観音寺は、真言宗の御室派に属する寺院でした。本寺の仁和寺や末寺との間で交わされた近世文書もありました。また、末寺から観音寺にあてて、寺の由緒とともに窮状を訴え、1石あたり1合の赦免が夏秋の「初尾」徴収を許してもらいたいと願い出た際の文書も見つかりました。

調査は学生たちが主となって進められ、くずし字が読めない箇所などは教員がアドバイスしました。こうした古文書の整理作業は初めてという1年次生もいましたが、次第にくずし字で書かれた古文書を読み、カード化する作業にも慣れてきたようで、2日目にはかなりの量の史料を整理してくれました。2日間の整理の結果、総計790点のカードをとれました。

歴史ある土地だからこそ、今回のように朝から夕方まで史料を読み解く経験ができました。この調査を通じて学生たちはさらに読解技術と経験を身に付けてくれたと思います。

文学部史学科
1年生

清水 悠蘭 さん
(長野県伊那弥生ヶ丘高等学校出身)



初めて調査に参加させていただきました。江戸時代や明治時代などに書かれた歴史ある史料に触れることができ嬉しかったです。同一の字でも史料によってくずし方が異なったり、全く違う字なのにくずし方は似ている字があったりと、史料を読むのがとても難しかったです。先生方に助けてもらいながら読んでいくうちに、自分だけで読める字が増えて達成感を感じました。また機会があれば是非参加させていただきたいです。

Contents

1 特別企画 100周年記念

3 授業紹介

9 通信教育部生便り

10 トピックス

13 クローズアップ

14 インフォメーション

15 研究室紹介
文学部 国文学科
穴井 潤 講師

地理学科では海外巡検で イタリアに行きました。



地理学科では海外巡検を2024年8月25日～9月3日に実施しました。地理学科教員2名が引率し、20名の学生が参加しました。今回の巡検先はイタリアと2つの小国バチカン、サンマリノで、ローマ、ベネチア、ミラノといった大都市だけでなく、日本人のほとんどいない丘陵地の農村やアドリア海岸も訪問して、交通・観光・気候・農業・食文化・工業・地形といった、さまざまな地理学的視点から日本との違いを学びました。

ローマ・バチカンでは、小劇場でオペラを鑑賞し、サンピエトロ大聖堂、システリーナ礼拝堂などを見学しましたが、地理学科の学生は特にバチカン美術館の「地図の間」に関心を示していました。マルケ州では、オーガニック農法によるブドウやオリーブの栽培、家族経営のワイナリーでワインの作り方を見学しました。高級ブランドの革工場では「第三のイタリア」の技術力を実感し、イタリア人のバカンス地として賑わうアドリア海岸では地形を調査しました。山の上の小国サンマリノは急坂が多く、歴史的経緯を感じました。ポー川流域では農業的土地利用を車窓観察しました。ベネチアではガラス細工のお店を横目に細い路地を歩いたりゴンドラに乗ったりと、車の入れない島を体験しました。パドバではスクロベーニ礼拝堂を見学し、その美しさに心を奪われました。ミラノでは大聖堂内部の荘厳さ、ステンドグラスの美しさや多さに素晴らしいと感じました。盛りだくさんとなりましたが、参加者はそれぞれの興味分野を現地で深く学びました。

文学部地理学科
4年生

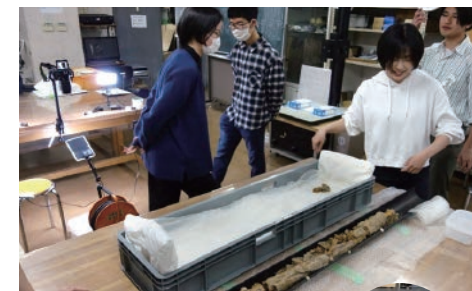
文平 健介 さん

(奈良県立奈良朱雀高等学校出身)



イタリアには以前から関心があり、今年の海外巡検先がイタリアと聞いて、うれしく思いました。現地では山間部を走る長距離快速列車にりましたが、窓の外はブドウ畑やオリーブ畑が続いており、日本とは全く違う、整備された丘陵地帯に感動の連続でした。アドリア海に近い都市アスコリ・ピチェーノなどは外国人観光客が全くおらず、観光地化されていない街を学生のうちに見聞できたことも大変良い経験です。また、日本が好きというイタリアの方々とも出会えました。あるホテルのスタッフとは今もSNSで交流しています。やはり、Webや冊子だけでなく、実際に訪れてみないと得られない経験や感動があるということを、今回の巡検で改めて実感できました。

法隆寺駐車場内の古墳「舟塚古墳」。 出土品は奈良大学で保存処理中！



2023年9月、文化財学科の調査により、法隆寺駐車場の植込が古墳だったことが判明してマスコミ等でも大きく報道されました。この古墳は「舟塚古墳」と呼ばれています。古墳は埋め戻されましたが、古墳内から出土した琥珀玉、馬具、鉄器などさまざまな遺物については、現在も文化財学科で保存作業が進められています。

琥珀は木の樹液が化石化したものです。鉱物としての石材とは異なり、劣化しやすい素材です。舟塚古墳では多くの琥珀玉が出土していますが、その多くが破損し、出土時の土も付いています。更に出土時に水気を多く含んだ土壌に埋まっていたので、その状態を維持するために水分を保持して保存した後、水気を取り除き安定化させるとともに、クリーニングや強化を行いました。

琥珀玉以外の資料（主に鉄器）についても、最初の資料確認と保存処理前の写真撮影を行いました。資料は鍬、馬具（轡や鉸具）、大刀など約20点程度です。大半の資料が錆と土に覆われ、本来の形状とは程遠い状態です。これをクリーニングして、できる限り元の形に近づけていくことになります。保存作業は学生も手伝いますが、他大学の人も含め延べ10人の学生が参加してくれる時もあります。

文学部文化財学科
1年生

天本 愛子 さん

(筑紫女学園高等学校出身)



私は、琥珀や鉄器の保存処理に携わり、特に琥珀は、接合まで一人で行ったため思い入れが強いです。実際の作業は、透過X線撮影、クリーニング、接合など、すべてが初めての経験で不安もありました。しかし、顕微鏡で資料をじっくり観察する楽しさや、細かな作業の達成感、資料に直接触れる喜びなどを感じ、責任を持って作業に取り組みました。発掘を担当された豊島先生に出土時の話も伺いました。考古学と保存科学の両方の視点から資料を見ることができ、奈良大学で学ぶ意義を実感しています。

地域臨床実践研究会で夏のイベント 「ならぼー」を実施しました。



8月5日(月)に、心理学科の学生や社会学研究科の院生が中心となって行っている「地域臨床実践研究会」(担当教授 心理学科 礒部美也子・林郷子)の夏の恒例イベント「ならぼー」(奈良大×大冒険)を実施しました。「ならぼー」は地域交流の一環として行っていて、昨年度に引き続き、放課後等デイサービスコラソンの皆様にご参加いただきました。子どもたちを大学に招いて一緒に遊ぶイベントなので、まずどのような遊びをするか、学生自身が企画するところから始めます。当日は、自己紹介ゲームの後、宝探しのための暗号を見つけるに構内に出かけました。魚釣り、ボウリング、シルエットクイズ、ポッチャ、玉入れなどのゲームをクリアしながら暗号を集め、最後に宝物をゲットしました。計画通りにいかないこともありましたが、子どもたちとの関わりは学生たちの貴重な学びの経験となりました。最後に渡したプレゼントや手紙を子どもたちが笑顔いっぱいにととても喜んでくれて、学生も何物にも代えがたい、うれしい宝物をもらった気持ちになりました。「地域臨床実践研究会」ではボランティア活動の推進などを行っており、他学科の学生も大歓迎です。ぜひ参加してください。

社会学部心理学科
4年生

小林 蓮 さん
(高等学校卒業程度認定試験)



地域臨床実践研究会は、ボランティアを推進するために活動しており、学外でボランティアをしている学生や、今後何かボランティアをやろうと考えている学生が多数参加しています。私は子ども食堂にボランティアスタッフとして参加していて、その体験を他の学生に伝えることもあります。ならぼーの企画・準備は学生と大学院生が協力して行い、当日は子どもたちと一緒に楽しみました。普段子どもとの関わりが少ない学生にとっては貴重な時間だったと思います。ボランティアや研究会に参加することで講義だけでは学べない経験ができると思うので、興味のある方はぜひ参加して欲しいです！

奈良市議会と大学生との ワークショップを開催しました。



10月と11月に奈良市議会と奈良大学生とのワークショップを開催しました。このワークショップは、2019年より、社会学部総合社会学科の1年次生必修授業「基礎演習II」の一環として、市議会のご指導とご協力をいただき、地域や社会への関心を高め、実践的な課題解決能力を身につけるために毎年開催しています。

2024年度の第1回目は10月7日(月)に、奈良市議会から、議長の森岡弘之議員、副議長の太田晃司議員、議会運営委員会委員長の山本憲有議員、副委員長の樋口清二郎議員の4議員にご来学いただきました。山本憲有議員から、奈良市政と奈良市議会について分かりやすく解説していただいた後、学生との質疑応答も行われました。続いて、学生が、本年度の「奈良市地域に飛び出す学生支援事業補助金」に採択された2つの地域課題解決のための取り組みについて報告し、議員の方々から質問やコメントをいただきました。

第2回目の11月18日(月)のワークショップでは、市議会の5委員会より提示されたテーマについて、5グループに分かれた学生が各委員会の市議会議員の方々とディスカッションを行い、最後に地域の課題とその解決策について、学生目線でのまとめのプレゼンテーションを行いました。議員の中には、12月の奈良市議会定例会において、ディスカッションで出た意見に基づいた質問を行われた方もいらっしゃいました。

※「補助金採択事業」は奈良大学から4団体が採択されており、うち総合社会学科の学生が主体となる事業は「大学生から発信する“ダンジョキョウドウサンカク”プロジェクト」「わたしを守る・大切なあなたを守るプロジェクト」の2つです。

社会学部総合社会学科
1年生

橋本 歩実 さん
(暁星国際高等学校出身)



教員の働き方改革をテーマに、奈良市議会議員の方々と意見交換を行いました。授業準備や行事運営の効率化、書類作成のデジタル化などを提案しましたが、議員の方々からの質問を通じて、具体的な効果や実現可能性を高めることの重要性を実感しました。プレゼンでは、分かりやすく伝える工夫を意識した結果、提案内容に関心を持っていただけたことが励みになりました。この経験を通じ、現場の声を反映した解決策を立案する難しさと意義を改めて感じました。

奈良大での学びと出会いに感謝！

在学 中村 由美 さん

子育てとコロナがひと段落したタイミングで、学生の頃からあこがれていた学芸員の資格を取ろうと思いました。せっかく勉強するのであれば、大好きな奈良にある奈良大学で勉強したいと、2023年に奈良大学の通信教育部に入学をしました。

入学してすぐに送られたテキストを見て「頑張るぞ！」と意気込んでいましたが、久しぶりの勉強で学習感覚が戻っていないうえ、勉強時間が仕事の後や休日などに限られていたため、思うように進めることができませんでした。このような状況の中、「このまま勉強を続けられるだろうか」と不安な気持ちで初めてのスクーリングに参加しましたが、そこで出会った友人たちのおかげで、私の不安な気持ちは無くなりました。友人達も同じように勉強で悩んでいたため、ランチや休憩時間などお互いの悩みを話したり、同じ歴史好きとして情報交換をしたりと、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。さらに、スクーリング後も友人達と情報交換する中で、沢山のことを教えてもらい、レポートや試験も合格がもらえるようになってきました。その中でも、特に卒業論文の作成においては、友人たちの励ましがとても力になりました。卒業論文の作成は、自分の考えや知識だけでは限界があり、行き詰まることも多々ありました。そんな時に友人たちからのアドバイスや「一緒に頑張ろう」といった言葉はとても支えとなり、無事、期間内に草稿を提出することができました。

新しいことにチャレンジすることはとても勇気のいることでしたが、勉強の楽しさと素晴らしい友人たちに出会うきっかけをくれた奈良大学に、思い切って入学してよかったと心から思っています。



通信教育部生
便り

奈良大学の学びは圧倒的に楽しい！

卒業 根本 睦 さん

私が歴史に興味を持ったきっかけは、母が『源氏物語』を勉強していて、家庭で歴史についての会話が多かったためだと思います。私自身、黒岩重吾、杉本苑子、永井路子などの古代歴史小説や新書の歴史関係の書物を読んで歴史に親しんできました。

50歳を過ぎ、書物を読んでいるだけでは物足りなくなり「歴史学を体系的に学びたい。」と思いました。インターネットで生涯学習や歴史講座などを検索しているときに出会ったのが奈良大学でした。見つけた瞬間「これだ！」と思ったのです。

レポートを作成していると自分の知識の浅さに気づかされることが度々あり、改めて体系的に学ぶ重要性に気づかされました。

何よりも楽しかったのは「史学演習」のスクーリングでした。あこがれであった寺崎先生から直々にお話を伺える機会を得られたことや、受講生の方々の知識の豊富さや研究分野に驚かされ刺激をうけました。各自の研究テーマを発表した際の質問やディスカッションが活発で、皆様の熱心さに感心しました。コロナ禍の前でしたので、生徒の方々や、通信教育部事務の方々ともコミュニケーションがたくさんとれたことも大きな楽しみでした。

3年次編入して2年で卒業後、2年間博物館学芸員資格課程科目等履修生として学芸員資格を取得しましたが、卒業後も学友会の見学会や講演会に参加させていただき、奈良大学とのつながりを持ち続けることができています。学友会の活動に少しでも役立てればいいと思い、学習相談会の相談員をさせていただくことになりました。

他の大学で司書資格を取得しましたが、奈良大学の「学び」は圧倒的に楽しく本格的です。奈良大学で学ぶことができたことは、自分にとって大きな財産となっています。



トピックス

「奈良文化論」で雅楽演奏会を開催

「奈良文化論」は全学科対象の講義で「奈良の文化と伝統芸能」をテーマに、大仏開眼供養会の芸能や、特に神事芸能としてもよく知られている雅楽を中心に芸能の発展を学ぶ講義です。

7月5日(金)の講義では奈良大学雅楽研究会による演奏会が行われ、現役の部員らとともに、本講義の講師で公益社団法人南都楽所の指導役を務めておられる笠置慎一先生にも演奏していただきました。会場では、奈良文化論受講者以外の学生や教職員も聴講して、世界最古のオーケストラと呼ばれる雅楽の演奏会を堪能しました。

演奏会後には、雅楽研究会部員による楽器解説や、楽器に触れられる体験会が行われ、多くの学生が部員の話に聞き入っていました。



国文学科3年生による図書館展示を開催

国文学科の光石亜由美教授(日本近代文学)のゼミで学んでいる学生たちが、ジェンダーと文学について広く知ってもらえるようにと、授業の一環で図書館展示を企画・開催しました。開催期間は7月6日(土)～8月31日(土)、企画名は「○○したいと思っている人に読んでほしい！ーあなたの「恋」はどんな形ですか。今、誰を想像しましたかー？」です。

企画検討段階でキーワードの1つとして〈恋愛〉が多く挙がったため、男性と女性の恋愛からLGBTQ+の恋愛まで3つのテーマに分けて展示を行いました。1つ目は『さまざまな恋の在り方』です。LGBTQ+と、アイドル・二次元に対する叶わない恋。2つ目は『I LOVE YOUを訳しまSHOW』です。ここでは告白、プロポーズを対象とした、小説等を展示。3つ目は『恋愛に涙は必要ですか？』です。ハッピーエンドに飽きた人達を対象とした展示を行いま

した。時代ごとの内容、題材の移り変わりを見てもらうとともに、悲恋作品特有の感情の描かれ方を楽しんでいただくことを目的としました。

これらの展示を通して、「恋愛」にさまざまな形があることを多くの方に伝えることができたと思います。



中学校・高等学校の先生方を対象にGISの講座を開催しました

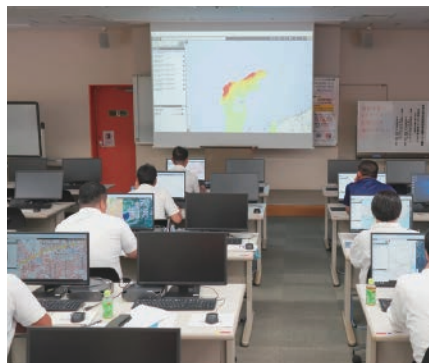
8月7日(水)と8月8日(木)の二日間、中学校や高等学校で地理を担当されている先生方を主対象に「地理授業へのGIS(地理情報システム)の導入例と簡単な実習」をテーマに講座を開催しました。

両日とも同じプログラムで、前半

は文学部地理学科の芝田篤紀講師（自然地理学、地理情報科学）が、後半は酒井高正教授（人口地理学、地理情報システム、地域統計学）が、それぞれGISの活用事例について実習を交えながら講義を行いました。

高等学校ではGISの内容を含む「地理総合」が必修科目となったことから、近年、地理を担当されている先生方の間では、GISの授業への活用に対するニーズが高まっています。

今回は、近畿圏はもとより、長野県や山口県、福岡県からもご参加いただき、皆さん熱心に受講され、講義後も酒井教授や芝田講師と地理教育について懇談されている方もいらっしゃいました。



奈良市が実施する「学生支援事業補助金」に奈良大学から4団体が採用されました

奈良市が実施する「令和6年度

奈良市地域に飛び出す学生支援事業補助金」の対象として、奈良大学から社会学部学生など4つの学生団体が採用されました。本学から採用された事業は、「平城半神話大系」「若者の生きる意欲を支えるゲートキーパー活動」「大学生から発信する"ダンジョキョウドウサンカク"プロジェクト」「わたしを守る・大切なあなたを守るプロジェクト(NO MORE 性感染症 and バイオレンス!）」の4件で、それぞれ地域の課題解決のために活発に活動しています。学生たちの今後の活動にご期待ください。



文化財学科の学生が「一日文化財保安官」に

11月1日（金）、文学部文化財学科3年生の榎谷咲希花さんとアリウンボルド・アヌージンさんが、奈良県警察本部長からの委嘱を受け

「一日文化財保安官」として文化財防犯啓発活動を行いました。本事業では毎年、文化財学科の学生が「一日文化財保安官」として、全国でただ一人奈良県警に配置されている「文化財保安官」とともに、奈良県内の寺社をパトロールしています。10年目となる今年度は、警察官の制服に身を包んだ二人が協力依頼を受けた文化財学科の魚島純一教授（保存科学・博物館学）とともに奈良県警察本部での委嘱式に出席後、文化財保安官とともに西大寺と喜光寺を訪れました。学生たちは、訪問先で関係者から防犯対策について説明を受けるとともに、夜間の警備体制等について質問するなど、「一日文化財保安官」の任務を十分に果たしてくれました。パトロールには奈良市消防局の文化財防災官も同行し、防犯・防災双方からの啓発活動となりました。



教育のつどいを開催

在学生の父母等で構成される奈良大学後援会と奈良大学の共催による「教育のつどい」が、9月22日の東京をはじめ、福岡（10月6日）、奈良（10月20日）の3会場で行われました。本学会場では、文学部史学科の渡辺晃宏教授（日本古代史）による講演「聖武天皇・平城京・木簡」、キャリアセンターによる説明会「コロナ禍後の働き方と就職活動」のほか、学生食堂での昼食をはさみ個別懇談会を実施し、たくさんの在学学生のご家族にご参加いただきました。奈良大学では、父母等の皆様とも連携しつつ在学生の皆さんの学生生活を支援しています。



ホームカミングデーを開催

卒業生の皆様を奈良大学へお迎えして、恩師や同期生との再会をお

楽しみいただくために、創立25周年を記念して第1期卒業生の方々を大学へお迎えして以来、毎年ホームカミングデーを開催しています。今年度は32・33・42・45・47・49・50・51期の皆様をご招待して、10月26日（土）に開催しました。当日は、文学部文化財学科の大河内智之准教授（日本美術史・日本彫刻史、文化財防犯）による講演「盗まれる仏像－実態と対策－」、学生食堂での懇親会と記念写真撮影の後、大河内准教授による解説で唐招提寺を見学しました。また、卒業生教育職員懇話会も同日開催され、日本各地の学校で活躍する卒業生が来学して、親睦を深めました。



第55回青垣祭を開催

11月3日（日・祝）・4日（月・振）の2日間で大学祭「青垣祭」を開催しました。両日とも快晴となり、近隣の住民の方々や卒業生の皆さんにも多数ご参加いただきました。クラブ・サークル・ゼミ団体による模擬店や公演・展示発表のほか、奈良市消防局による体験イベントや移動動物園、野菜市も行われました。4日に行われたお笑いライブは、講堂の2階席まで満席となり、大いに盛り上がりを見せました。

展示や発表は、時間をかけて準備された一年間の活動の集大成となりました。来年度の開催を楽しみにお待ちください。



■ クローズアップ 「第18回 全国高校生歴史フォーラム」



11月に「全国高校生歴史フォーラム」を開催しました。今回は68校86編のレポートから、優秀賞5編、佳作6編が選ばれ、1日目の11月23日(土・祝)には奈良大学令和館において、優秀賞受賞者と佳作入選者による研究発表会と表彰式が行われました。2日目の11月24日(日)には文学部文化財学科の岩戸晶子教授の解説で東大寺を見学した後、文学部国文学科の光石亜由美教授の解説で奈良公園周辺を見学しました。特に東大寺では、「特別登壇」で大仏様のお膝元まで登ることができ、参加した高校生たちはお膝の文様などに驚きと感動を隠せない様子でした。

審査結果

優秀賞
学長賞

駒場東邦中学校・高等学校(東京都)
伊藤拓生
新発見の山城「赤柴城」の存在意義
ーその立地と縄張りの比較分析ー

優秀賞

岐阜県立関高等学校 地域研究部
土本徳哉、森翔吾、岩原知哉、渡辺俊太、佐藤孝亮
戦国・織豊期における飛騨川流域の製材と運材

京都府立鴨沂高等学校 京都文化コース2年生
石川健志朗、岩崎紗良、上田彩夏、大橋雫、小田原チヨ、酒井謙、竹内翔羽、田中咲、中村明莉、樋口仁子、牧原佳乃子
本校が所蔵する明治時代の西洋画の作者について

愛媛県立松山北高等学校 郷土研究部
森川晴仁、岸本美花、岡部美紀、森貞裕太郎、谷口凱星、山住悠理
松山市に伝わる小野小町伝承の謎を解く

<全国高校生歴史フォーラムについて>

主催は奈良大学と奈良県。「歴史や文化、地理、文化財、文学、人物、社会」をテーマとして、全国の高校生に、自ら設定した課題について調べ、考察し、探究していく研究の楽しさを実感してもらうことを目的として開催しています。



公式サイトはこちら

優秀賞
知事賞

長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース2年 歴史学専攻
片野一帆、後藤健、須賀干城、丸山隼平
興原古墳の石材運搬に関する研究
ー古墳時代社会解明への道しるべー

佳作

筑波大学附属中学校・高等学校(東京都) 大谷一真
坂本龍馬秋山某宛書簡における「秋山先生」考

世田谷学園中学校・高等学校(東京都) 濱崎孝則
下野薬師寺の戒壇設置について
ー氏寺からの官寺化としてー

静岡県立富士高等学校 渡邊正太郎
富士郡における士族の地方行政進出
ー沼津勤番組員を中心にー

静岡県立浜名高等学校 史学部 加藤大雅、馬淵太一
人と道と道の関係性
～東海道、姫街道、そして犬くぐり道などからの考察～

愛知県立五条高等学校 小山さくら
各務支考賛松尾芭蕉図の研究

長崎県立大村高等学校 前田英太郎
大野遺跡や出津遺跡のキリシタンが禁教令下の時代に発見されなかった理由について
～大村氏・深堀氏との関係性・歴史や地理的環境から読み解く～

※高等学校等コード順に掲載(敬称略)

■ インフォメーション

■ 近刊紹介 ～本学教員の著書～

- ◆**奈良県言語地図**
奈良大学特別研究員・国文学科元教授 岸江信介 共監
国文学科国語学研究室・奈良大学方言サークル発行
2024年3月刊行(非売品)
- ◆**都市祭礼と中世京都**
史学科教授 河内将芳 著
法蔵館 2024年6月刊行
- ◆**日本の都市百選 第2集**
地理学科教授 稲垣稜 共著
古今書院 2024年7月刊行

附属高等学校

奈良大学教員による「GIS×防災」出張授業

12月3日(火)、「地震、震災、防災とGIS(地理情報システム)」と題して、奈良大学文学部地理学科の芝田篤紀講師(自然地理学、地理情報科学)による出張授業を実施しました。

今回は防災とGISがテーマで、1995年1月に発生した兵庫県南部地震における、碓井照子名誉教授(当時は助教授)の被害調査でもGISを活用したことなどをお話いただきました。

また、防災グッズの紹介、地震発生のメカニズム、震度とマグニチュードの違いなど基本についても教えていただいた後、WebGISサービスの「地理院地図」を、各自のスマートフォンやノートPCで実際に使用する実習も行われ、生徒にとって防災への意識を高めるよい機会となりました。



- ◆**本法寺蔵 法華経曼荼羅図 法華経をめぐるイメージの世界**
文化財学科教授 原口志津子 著
法蔵館 2024年6月刊行
- ◆**きょうだいの日本史**
文化財学科教授 吉川敏子 共著
吉川弘文館 2024年8月刊行
- ◆**西洋中世文化事典**
史学科教授 足立広明 共著
丸善出版 2024年11月刊行

附属幼稚園

地域の方へのお礼～消防署訪問～

11月22日(金)、年長児は消防署に行きました。クラス皆で書いたお礼の手紙とお品を持ち、少し緊張しながらも、憧れの消防士さんや救急救命士さんに会える事を楽しみに向かった消防署。中には、個人的に書いた手紙をポケットに大切にしている子もいました。到着して、お礼の言葉と手紙と共にお品をお渡しすると、笑顔で目線を合わせて受け取って下さり、救急車にのせていただいたり、ポンプ車の説明や防火服への着替えを見せていただき大興奮の子ども達。途中、救急の連絡が入り、颯爽と救急車は出動していきました。「誰か怪我したのかな?」「大丈夫かな?」「頑張ってね!」と見送り、最後に消防士さんと敬礼で写真撮影をして幼稚園に帰ってきました。感謝の気持ちと強い憧れを抱いた、子ども達にとって印象深い一日でした。

